



ウォレマイ・パインの発見の経緯

ウォレマイ・パイン (学名ウォレミア・ノビリス *Wollemia nobilis*) はナンヨウスギ科の一種で、2億年前の恐竜の時代に既に生存していたと考えられている。この木は世界で最も古く、最も稀少な樹木の一つである。1994年のシドニーのブルー・マウンテンでの発見は、こんにち、生きた恐竜を発見するに匹敵するほどの人類史上重要な植物学上の発見である。それ以前は、ウォレマイ・パインは化石の記録が残っているだけで絶滅したと考えられていた。

ニューサウスウェールズ州 (NSW) 国立公園野生生物局の保護官で熱心なブッシュウォーカーでもあるデビッド・ノーブル氏が1994年9月、この木を発見した。デビッドが深い熱帯雨林の峡谷の急斜面をロープで下降していた時に、偶然この古い樹木の群集を発見した。幹の直径が約1mあり、高さ40mほどで、独特な枝の分かれ方をしており、珍しいシダのような深緑の葉を持っていた。樹皮は表面が泡立ったチョコレートのように見えた。奇妙な木に魅せられたデビッドは、落ちた枝を拾って、歩き続けた。

シドニーに戻り発見に困惑したデビッドは、この木の識別の助けを求めた。彼は NSW 国立公園野生生物局とシドニー王立植物園に識別の協力を依頼した。この枝のサンプルはシダではなく奇妙な針葉樹のような木から採取したという彼の報告は、NSW 国立公園野生生物局のウィン・ジョーンズ (Wyn Jones) 氏とマウント・トマー植物園のジャン・アラン (Jan Allan) 氏、2名の科学者の好奇心をかきたてた。

科学上の好奇心に触発され、3人は発見場所へと戻り、多くのサンプルを集め、調査を行った。3人はそこで目撃したものに愕然とした。その木は今までに見たこともないものだった。ジャンとウィンはこの木に仮称を付け「ウォレマイ・パイン」とした。これは、最初に発見された場所、ウォレマイ国立公園にちなんで名付けられたものだ。学名のウォレミア・ノビリス (*Wollemia nobilis*) は、この木の素晴らしい特質と発見者のデビッド・ノーブル氏に敬意を表して名付けられた。

現在は数少ないウォレマイ・パインの群生があるだけで、成木は約100本程である。この絶滅の恐れのある群生を保護するために、シドニー王立植物園と NSW 国立公園野生生物局が企画した「ウォレマイ・パイン再生計画」は、この木の繁殖と全世界への販売を保護計画のかぎと位置づけた。

2005年から2006年にこの木の販売が始まると、そこから得られる販売権料は、ウォレマイ・パインやその他の絶滅危惧稀少種の保護に運用される。この木を世界中の家庭や庭園、公園で育てることで、この種を絶滅から救い、人々が許可なく、野生の群生地へ立ち入る危険性を最小限に抑えることができる。興味があり、購入を希望する方は、ホームページ：www.wollemipine.com のウォレマイ・パイン保護クラブに登録することをお勧めする。

問合せ先:

日本：
アップストリームアジア・ジャパン
塚原 薫 (ツカハラ カオル)
kay@upstreamasia.com
Tel: 03-3568-1215

オーストラリア：
Wollemi Pine International
Sally McGeoch (サリー・マギオフ)
sally@wollemipine.com
Tel: +61-438-153-655

www.wollemipine.com